

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(4) 『人のため』喜び実感

2010年4月27日

五百円の寄付(図書購入費)で、メッセージカードに言葉を書き、カードを張った図書を外国の子どもに贈る「ワンコインプロジェクト」。プロジェクトに参加した富山市の小学生は、ボランティアで、インドネシアの子どもを喜ばせることで、貴重な経験をしたという。

日本には、どの小学校にも図書室があり、十分な本が整備されているのが当たり前ですが、世界にはそれが当たり前ではない国がたくさんあります。そんな国の一つのインドネシアの子どもたちに本を届ける活動をしているのが、インドネシア教育振興会のワンコインプロジェクトです。



現地に届けたメッセージカード

富山市新保小学校では、六年生の総合的な学習の時間に「国際理解」をテーマにした学習をしています。この学習で、世界の現状を知った子どもらが、日本という豊かな国に生まれたことに感謝し、世界の恵まれない子どもたちのために、できることから取り組みたいという気持ちを抱いたときに出合ったのが、二〇〇七年七月十七日のNPO通信の記事でした。

地元富山で活動し、子どもたちと実際に会い話をしてくださることが可能な団体との連携をと考え、〇七年度と〇九年度の二回、ワンコインプロジェクトに参加しました。

「正直、ボランティアをするってめんどくさいと思っていたけど、やってみて考えが変わりました」「今まで人のために何かをしてこんなにうれしかったことはありませんでした」。これは、〇七年度に実践した際の子どもたちの感想です。

五百円玉一枚で本一冊という、子供たちにとってさほど負担にならない金額で参加できるワンコインプロジェクトのすばらしさはもちろん、自分が書いたメッセージが、直接、現地の子どもたちの手に渡り、喜んでもらった事実を知らせてもらったことが、より大きな喜びになりました。

自分たちの書いたメッセージが張ってある本を手には笑うインドネシアの子どもたちの写真を見たり、日本語で「ありがとう」と言っている声を聞かせていただいたりしたときの子どもらの満足した笑顔は、忘れることができません。

プロジェクトに参加し、インドネシアの子どもたちを喜ばせてあげられた経験は、児童らの心の中に小さなボランティアの種となり、これから大きく育っていくと信じています。(富山市新保小学校教諭・追分香織)

PR情報

[東京築地でキティちゃんが運転している乗り物は何！？【47CLUB】](#)
[家計仕分けで保険見直し！35歳\(男性\)月額970円の死亡保険で家計改善](#)